

## “輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～



☎861-5531

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

心からのエンジョイ!

校長 丹羽 正昇



長い夏休みが終わり、ひぐみっ子たちの明るい声が学校に戻ってきました。夏休みの間、大きな事故やけがに関する報告が各家庭からなく、ほっとしております。これも、ひぐみっ子自身やご家族、地域の皆様の、健康や交通安全への意識の表れと感謝申し上げます。いつもありがとうございます。

さて、夏休み明け初日にあった朝会で、今夏の全国高等学校野球選手権大会にふれました。大会は、皆様ご存じのとおり、横浜市の慶應義塾高等学校の107年ぶりの優勝で幕を閉じました。一世紀ぶりの優勝というのが話題になりましたが、なによりも世間を席卷したのは、「エンジョイ ベースボール」という言葉でした。これからの高校野球の在り方や方向性を、大きく変えるきっかけになるのではないかとされているこの言葉。高校野球が、教育の一環であることを印象付けるものでした。学校を名乗る団体や組織が、本来子どものものであり、その育ちを支援する社会的存在であることを、日本中に知らしめたと思っております。さらに思うのは、教育とは、その主体者（多くは子どもたちですが、大人も当てはまります）の育ちに期待することなのだと思います。その意味では、「教」という文字を使って、教育があたかも誰かに教えられるものという感覚は、もはや古いのかもしれませんが。

「エンジョイ ベースボール」という言葉。子どもが育つことへの期待感や、楽しさのもつ本質的な意味を言い当ててもいます。改めて言うまでもなく本当に楽しいことは、自分で考え行動するときこそ得られるものです。自分で考えて行動するときの自由さや爽快感が、楽しいという感覚に直結しているからでしょう。しかし、実際に自分で考えて行動しているときには、苦しい、難しいなどの感覚に陥ることが多々あります。むしろ、誰かに決めてもらったことに、黙々と従っていることを楽だと感じてしまう。もっと深刻なのは、大人の子どもの関わり方です。ときとして大人は、自分の感覚や経験を絶対的なものと信じたまま、子どもに深く関わってしまうことがあります。これのよくないところは、よかれと思っている分、押し付けている自覚に乏しいことです。それと似たようなことに、子どもが成長の過程で悩んだり迷ったりしている姿を、苦しんでいるのではないかと錯覚するのがあります。少しでも楽にしてあげたいという優しさがあだとなり、子どもの考える力や自分でやり抜く意思や自由を奪い、「エンジョイ」どころか、ずいぶんと窮屈な思いをさせているかもしれないのです。

私たち大人は、未来社会を創造する子どもの育ちに責任を負っています。その責任を果たすためには、子どもの心からエンジョイしている姿に、希望ある未来社会を見だし、どこまでも期待して委ねる姿勢が鍵になると思います。ひぐみっ子が心からエンジョイしている姿。これからも追い求めていきたい。そう思った暑い夏でした。

## ひぐみっ子の成長のために

教務主任・高学年統括主任 岡本 亜希子

教務主任、高学年統括主任をしております、岡本亜希子と申します。ひぐみに着任して今年で8年目になりました。統括主任になって2年半、教務主任になって1年半が経とうとしています。

今年の7月、8月と、各地区で納涼祭などが開催され、職員の一人として私も参加させていただきました。4年ぶりの開催を心から喜ぶ地域の皆さんの笑顔をたくさんの場所で拝見し、私も8年間で関わった、たくさんの方たちから声を掛けてもらい、嬉しかったです。おそらく他校出身で、私のことを知らない友達にも、皆さんはきちんと、「ひぐみの先生だよ。」と紹介してくれました。ある人は「家庭科の先生だよ。」ある人は「5,6年の時の担任の先生だよ。」ある人は「英語の先生だよ。」ある人は、「えーっと、先生、色々やってたよね。何の先生だったの。」と。思いがけない質問に、答えに困ってしまった私も考えました。統括主任、教務主任の役割とは、と。改めて考えてみると、どちらにも共通して言える役割は「子ども」「職員」みんなが、ひぐみっ子の成長のために自分でできることを考えて実践する姿を見守り、サポートすることです。また、みんなが困っているときに、話を聞き、一緒に解決策を考えることです。ひぐみの皆さんにとって、学校での活動がより良く、そして安心して参加することができるものであるよう、これからも一緒に成長していきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。